



【笑顔で奥さくらに話してくれた松山さん】

— 今までずっと2位が続きましたものね。

松山：もうちょっとなのによって、やっぱり辛い。(笑)
— 格別な思いですか。

松山：はい、1位ってこんなんなのかって。(笑)

— やっぱり1位になるだけの人は演奏がスラスラアッていうか、そういうものもないとれないものなのね。何かありますよね。

松山：私も2位の時でも何が欠けているのかと思っただけど、1位になった今でもそれはまだわからない。

— 舞台フィルの印象は？

松山：みんな、すごく頑張っていると思う。いつもリハーサルに行くのが最後だったから、どれだけみんなが頑張ったかわからないけれど、それでも集中してくれました。大変だったと思います。

— 自分の聴感の印象は何かありましたか？

松山：応じてくださる人がほとんどなので、アンケートを讀んでもよくわかります。

— 他の音が聴感と比べると？

松山：やっぱり、ニューオータキだったらちょっとタームっていう感じ。日本人の女の子がここで何をしているんだっていう感じが見えてきちゃう国もありました。

— 演奏自体じゃなく、日本人っていうことで？

松山：日本人で、アジアの女の子で、ニューオータキで学んだ者がここで何を弾いているんだっていう感じがちょっとして。

— 自分を推す持っているかという点ですかね。

松山：それか、何もしないかというタイプじゃないと。

— 自分が日本人というアイデンティティみたいなものを認めることはありますか？そういう他国の反応も含めて。

松山：それはやっぱり性格も日本人でこそ、アイデンティティがあるじゃないですか。もちろんしているとは、自分にとっては良いことだと思います。これを練習方法に使うとか、良い方に考えたら、何でもできる。

— ジュリアードを留学先に選んだのは、

松山：うーん、あれはただ単にアメリカにいってというだけで、私も母もそこにある学校っていったらジュリアードって名前しか知らなくて、そこをたまたま受けて入ったかな行っただけです。

— 他の国は考えなかったのですか？

松山：あんまり考えなかった。

— ジュリアードは選んでよかったのですか？

松山：よかったです。良い先生もいっぱいいるし、ニューオータキにはオケがいっぱいあるから。その中で先生も選べるし、演奏者はやっぱりニューオータキのメンバーはとどまり、夜にどこかへ行く人もいろいろけど、とどまった期間もちょっと苦しいという良さもあるから。

— 昨日のピアノとのデュオと、オケとの共演、それはもうイザミみたいな無伴奏、自分が一番自己表現できるのはどれですか？

松山：私としては、ピアノとのデュオが一番好きです。プレッシャーがなくてことになってくるので、それで息が合ったらほんとにやりやすいし面白い。でも、無伴奏は自分のやりたいようにできるのと、また面白い。オケだとやっぱりバツが歌ってやるのし。

— でもりきれいな時は？

松山：大賞ですね。でもオケだと怖いのはメモリーストップ（笑）したらどうしようって、そしたら100人程度のオケと一緒に聴感に行っちゃうっていう感じです。(笑)

— いろいろな先生に師事されていますが、先生が変わるっていうのはどういう意味があるのでしょうか。

松山：先生が変わらないとアイディアがひとつの目になっちゃうから、いろいろな先生に学んだ方がいいと思います。母がいつも、「一人のボスでは何事もできない、いろんな人がやってやっとなんかアイディアがまとまる」と話しています。

— それは演奏の仕方ではなくて、考え方もですか？

松山：考えも演奏の仕方も含めてですね。これまで先生はすごくテクニクに集中してくれる先生や、音程に集中する先生とかいろいろなタイプの先生に習ったけど、今、習っている先生は解釈をやっている先生で、私がコンチェルトでもソナタでも弾いていると、前に座って一緒に解釈をしてくれて、曲を作りあげてくれます。

— 花江さんにとって音楽とは？

松山：テクニクだけだとやっぱり辛いし、テクニクがなくて音楽性がいいと聞いてられないですからね。あとは自分の演奏の個性です。いろいろな先生に弾いながらそれが何年かの勉強しているところなんです。でもやっぱり本音に出ると自分の癖が見えて、苦痛しています。(笑)

仙台国際音楽コンクール出場者の近況

エリザベート王妃国際音楽コンクールで、第2回仙台国際音楽コンクール入賞者の松山洋花さん、チュウ・ダンさん、アンドレアス・ヤンケさんの3名がファイナル4に選出。そして松山洋花さんが4位に入賞しました。今年から来年にかけての松山さんの来日公演がとても楽しみです。（参考URL：<http://www.koringin-elisabethswetr.jp/>）

♪♪ 私の聴いた音楽会 ♪♪

仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会 シーズンオープニングコンサート

2005年4月10日仙台市青年文化センターコンサートホール

仙台フィルの2005年度のスタートとなるコンサートを楽しむことができました。第2回仙台国際音楽コンクールピアノ部門で優勝したタン・シヤオタンさん、ヴァイオリン部門2位のマクシム・ブリスリスキーさん、そして仙台フィル音楽フェスティバルの楽団員若原さんの3人がソリストを務めたベートーヴェン「3重協奏曲」では、軽やかで柔らかい春の目差しを感じさせるような素敵な音楽を聴くことができ、とても楽しまれた夜になりました。と同時に20年のコンクールでの素晴らしい演奏も聴かされた後かしくも感じました。仙台フィルの熱意もまた「1」位で4度連続し、演奏を聴くことができるとも満足しました。今後も皆さんの素晴らしい演奏をますます期待しています。（昭）



仙台国際音楽コンクール第1位入賞者コンサート 松山洋花ヴァイオリンリサイタル

2005年4月21日 王子ホール（盛岡）

東京・銀座街でのリサイタル。響きに定評のあるホールで、スタッフはハンドベルで演奏を知らせるという演出にもこだわりを感じた。ステージは洋花さんらしい華やかさで彩られて堂々、観客もあふれるノヴァーチェの「無伴奏」。シヤオタンの独奏では協奏の調々で響く演奏。息の合ったピアノと繊細なサシ指法に「次はどんな曲呢？」と期待してしまう。彼女の演奏での楽曲を「聴きたい、聴きたい」と思わせるリサイタルであった。（昭）

仙台国際音楽コンクール第2位入賞者コンサート タン・シヤオタンピアノリサイタル

2005年4月22日 王子ホール（盛岡）

前夜の松山さん同様で聞く、モーザルトの「夜想曲」に始まるシューベルト、ショパン、スクリャービン、プーラムスとプログラムの流れも動へとうらなって「スペイン狂想曲」へと到達。聴衆は感動したとよい。タンさんの繊細なるテクニックの所以であることに気づき、後には驚かすまでしばし。アンコールの曲に耳を込めてもらえなかったが、その際「聴け方」にもタンさんのこだわりを感じる。そして第42回入賞であった後の演奏には全編がいつまでも残された。（昭）

【喫茶店 モーザルト】

仙台市青葉区一番町3-11-14 丸町ビル3F 022(262)4689

オーナー：櫻橋健郎さん 営業時間11:00am - 11:00pm 無休



★急な階段を上るとドア越しにタラシクの音が聴こえてきます。中はオーナーが長い間ひとつひとつこだわって集めた家具、また毎年インドを訪れ、今年で7年目。その現地で撮った写真の数々が空間を飾り、優しく迎えてくれる。中でも子ども達のまっすぐなひとみに無言のメッセージを感じ、また足を運びたくなるカフェです。

★店名の由来：学生時代から親の影響でタラシク音楽に親しみ、よく行った山小僧でもモーザルトを聴いていた。そんな事もありカフェオープンに当たり、ザルプブルグのカフェ「モーザルト」の名前を頂いたとのこと。

★〒 告：インド写真展 会場：中本誠司現代美術館（青葉区東崎山2丁目） 2005年7月17日～30日
開店30周年記念コンサート 会場「喫茶店 モーザルト」 2005年12月中予定

仙台国際音楽コンクールニュース

2007年に開催する第3回仙台国際音楽コンクールの概要が決定しました。今回はオーディション会場としてこれまでのワグネル、上野、仙台、ニューオータキに、新たにモスクワが加わります。また国際音楽コンクール世界連盟（IFCM）への加盟も決定的に承認され、これまで以上の盛り上がりが見込まれます。

第3回仙台国際音楽コンクール概要

開催年度	1979年1月1日に開設した翌		
申込締切	2006年9月1日（海外有別）		
賞	1位賞金300万円、オーケストラとの共演、リサイタル、ほか		
オーディション	2006年11月下旬～2007年1月上旬 ワグネル、ワグ、モスクワ、上野、仙台、ニューオータ		
開催期間	ヴァイオリン部門	ピアノ部門	
	予選	2007年5月20日～22日	2007年6月10日～12日
	セミファイナル	2007年5月26日～28日	2007年6月16日～18日
	ファイナル	2007年6月1日～3日	2007年6月21日～23日
会 場	仙台市青年文化センター		
運営委員長	外山誠三（仙台フィルハーモニー管弦楽団音楽監督）		
審査委員長	岡 勝徳（ヴァイオリン部門） 野島 勉（ピアノ部門）		

注：国際音楽コンクール世界連盟（International Federation of International Music Competitions）

シエラレオネにてアマゾンコンクール、ジョージアにて国際音楽コンクールを含む世界最大のコンクールの開催！その開催に際しては、国際音楽連盟、国際音楽連盟（IFCM）の加盟も決定的に承認され、これまで以上の盛り上がりが見込まれます。

編集後記 本誌メンバーは、音楽界の中心に立ちつづけています。また、その情熱と努力により、これまで多くの音楽家を創り出し、世界にその名を轟かせました。また、その情熱と努力により、これまで多くの音楽家を創り出し、世界にその名を轟かせました。また、その情熱と努力により、これまで多くの音楽家を創り出し、世界にその名を轟かせました。

ポキンティア同好会

— ポキンティア各自の個性を輝かせよう — (2006)

発 行：仙台国際音楽コンクールポキンティア同好会事務局

問合せ：仙台市青年文化センター事務局（仙台国際音楽コンクール事務局）

TEL 022-222-6642

e-mail info@icm.jp

URL http://www.icm.jp/